日までを精確に記入せる事、重要なる人物の物故に際し、其年齢を記せる事、大正七年より逆算したる年數の一欄を設けたる事、閏月表を添へたる事等著者の用意の見るべきものあり、たゞ往々、植字の誤謬、界線の脱落あるは、惜むべし。（文會堂發行、價七五）〔中村〕

史眼に映ずる世界大戰　文學博士　箕作元八著

本書は著者が今次大戰の勃發以來、講演や雜誌に臨時發表したる時局に關係深き史論十餘編を輯めて一册子となせるものなり。載する所「現時世界大戰亂の亘相及由來」「近東に於ける獨佛外交の今昔比較論」「大陸封鎖の今昔論」「植民地整理に關する大戰前の英獨協商」「民族主義に關する獨逸思想の變調」「ドイツの被征服者に對する態度に就て」「露獨國是の絶對的衝突」「最近露國革命の由來」「佛露革命比較論」「ドイツの世界政策と我日本」「史眼に映ずる太平洋と其將來」の諸論文より成る、由來邦人の現世界の形勢を論ずる者多く根柢深き史的知識の素養を缺けるを以て、其言説動やもすれば粗放を免れず。現下の趨勢に對し堅實なる判斷を下し將來を豫察せんとするには、須く世界史に關する知識を培養し、現在の由つて來る所を明かにし、且史上の先例に注意するを要す。本書各篇の如き、孰れも著者が史的見解よりして時局を觀察し、而も廣讀者に對し既往に照して教訓する所ありし且特に我國の位置を說き邦人を警告せる點多きを以て、一般人士の繙讀して稗益する所甚大なるや必せり。（博文館發行、價、一、四〇）〔植村〕

希臘紀行　濱田青陵著

本書は著者が先に海外留學中、東京文科大學の市河三喜氏と共に希臘内地を旅行せる際の紀行なり、筆を伊太利出發に起して雅典の遺跡と風光とを說ける後、邦人としては殆んど最初の試みとも云ふべきクリート島の旅行を叙し、更にペロポネソス半島内地の探檢を載せ、北希臘への一歩を記して卷を終れり。四六判本文三百餘頁編中挿むに著者の自寫に係る貴重なる寫眞を初め圖版五十餘枚と卷末地圖一枚とを以てす。流暢なる本文と對照して一讀希臘の風光を想起し、榮ゆたる古代の文化と其の美術の一般を窺はしむ。（大鐙閣出版、價、二、七〇）

朝鮮古蹟圖譜　第五、第六册　朝鮮總督府發行

朝鮮總督府刊行の本書に就いては、去る大正四年創刊の際詳しく本誌上に紹介する所ありしが、本年に入りて近く第五、第六の兩册を出版するに至れり。其の體裁はすべて前四卷に同じく、大形美本にして、敢むる所第五册は新羅統一時代の佛像類、各種の古瓦、第六册は高麗時代の遺跡、何れも數百圖、當代の遺物遺蹟